

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

事業名	平城宮跡地等整備費			担当部局庁	文化庁			作成責任者	
事業開始年度	昭和40年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	文化財第二課			文化財第二課長 山下 信一郎	
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	文化財保護法 第1条			関係する計画、通知等	文化芸術推進基本計画 (平成30年3月6日閣議決定)				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	特別史跡平城宮跡は、我が国の古代国家成立に重要な役割を果たした場所として、文化庁が昭和53年に定めた「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想」に基づき、朱雀門や東院庭園の復原、第二次大極殿院地区の整備等を行う。また、特別史跡藤原宮跡等については、歴史的・学術的に貴重な価値を有する重要な遺跡として環境整備を行っており、引き続き、既存施設の維持・管理、未整備地の整備等を行い、我が国の優れた歴史・文化・伝統の保存活用を図る。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡、特別史跡キトラ古墳等を良好な状態で保全するため、防災設備の設置など、各種工事や整備を行う。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・執行額(単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
	予算の状況	当初予算	144.6	139.3	116.3	115.4	115.4		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	131.3	22	58	43	-		
		翌年度へ繰越し	▲ 22	▲ 58	▲ 43	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	253.9	103.3	131.3	158.4	115.4		
	執行額		100	99	100	-			
	執行率 (%)		39%	96%	76%	-			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		69%	71%	86%	-			
令和4・5年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目		令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由				
	平城宮跡地等整備費		101.6	101.6					
	施設施工庁費		10.8	10.8					
	施設施工旅費		3	3					
	計		115.4	115.4					
	活動内容(アクティビティ)		歴史的、学術的に貴重な価値を有する重要な遺跡である特別史跡平城宮跡や特別史跡藤原宮跡において、既存設備の修理・修復による維持整備や、未整備地の整備等を行うことにより、我が国の歴史、文化、伝統を次世代に継承する。						
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	特別史跡平城宮跡、特別史跡藤原宮跡等を良好な状態で保全する	各種工事及び整備事業の実施	活動実績	件	80	62	41	-	-
			当初見込み	件	5	5	5	5	5
単位当たりコスト	算出根拠		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	工事1件あたりの整備費執行額 執行額/工事件数		単位当たりコスト	百万円	1.3	3.4	2.2	31.6	
			計算式	百万円/件	100/80	211/62	91/41	158/5	
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標2年度	目標最終年度	
	年度内の平城宮跡への来場者総数を過去3ヶ年平均程度以上とする。	平城宮跡への来場者数	成果実績	人	323,751	195,731	181,915	-	-
			目標値	人	333,233	340,577	309,692	300,000	-
			達成度	%	97.2	57.5	58.7	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	実績に基づく数値								

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	12 文化芸術の振興	
	政策評価	施策	12-1 文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実	政策評価書 URL https://www.mext.go.jp/content/20210922-mxt_kanseisk02-000017742-12_1.pdf
				該当箇所 施策目標12-1-6
	新経済・財政再生計画改革工程表 2021	取組事項	分野:	-
(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:				
該当箇所				

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	平城宮跡等は、我が国の古代国家成立時の歴史と文化を理解する上で極めて重要な役割を果たしており、国民からのニーズは高い。また、遺跡規模や遺跡の重要性からも国が実施すべき事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	遺跡規模や遺跡の重要性からも国が実施すべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	政策目標の達成手段に設定されており、優先度は高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	各種整備事業を行うに当たっては、入札を実施する等、事業費の適正化及びコスト削減に努めている。また、整備内容は様々な観点から検討を行い、必要とされる整備から実施している。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	設計積算業務の発注や見積書の徴取により、コストの水準は妥当性を担保している。令和4年度は来場者向け案内標示の改修や、遺構表示補修整備等の大規模な工事を計画している。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	宮跡地の整備に必要な事業のみ実施している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	入札残による不用額である。	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴い、都道府県を跨ぐ往来に制限がかかったことにより、文化庁職員や自治体により行う実地検査を延期せざるを得ず、年度内に事業を完了することが困難となったため。	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	各種整備事業を行うに当たっては、入札を実施する等、事業費の適正化及びコスト削減に努めている。また、整備内容は様々な観点から検討を行い、必要とされる整備から実施している。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	支所管内整備を実施することで、学校教育や社会教育を通じた文化財の魅力の再発見等の機会を提供することができ、宮跡の活用につながっているが、令和3年度にあっては新型コロナウイルスの感染拡大を受け、他機関との協議のもと平城宮跡一帯で上半期中長期の施設休館対応を行った。この結果、10月1日の緊急事態宣言解除までのうち、平時であれば上半期中の営業日が157日あったところ、実際には49日となった影響が大きく、過去と比較しても最少の来場者数となった。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	各種整備事業を行うに当たっては、入札を実施する等、事業費の適正化及びコスト削減に努めている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	概ね活動見込みに見合ったものになっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	整備が完了した施設等については一般に公開され、活用に使われている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	
点検・改善	点検結果	平城宮跡及び藤原宮跡等は、歴史的・学術的に貴重な価値を有する重要な遺跡として環境整備等を実施してきたところである。各種整備は、史跡の状態により必要な整備を計画的に実施するとともに、実施に当たっては一般競争入札を実施するなど、コスト削減に努めている。	

<b>改善結果</b>	改善の方向性	<p>継続して事業の早期執行、一般競争入札を実施し、コスト削減に努めるとともに、整備された施設や文化財を、学校教育や社会教育を通じて一層活用されるよう対応していく。</p> <p>上半期コロナ禍による施設休館の影響を大きく受けたものの、前年実績に対して9割を超える来場者実績となっていることから、平時であれば前年度同水準以上の実績は期待できたものと推察される。史跡公園としての維持整備を継続することでその環境維持に努め、かつ、整備の成果ならびに特別史跡としての価値を関係機関との連携のもと積極的に発信、周知することで来訪者の増加を目指す。</p>
-------------	--------	---

**外部有識者の所見**

アウトプット指標(各種工事及び整備事業の実施)については、各年度5件の見込みであるが、各年度修繕箇所や小規模の工事案件の発生により、実績が見込みより大幅に増加しており、適正に評価することが困難である。  
各年度の見込値をより正確なものにするか、指標自体の見直しを検討すべきと考える。

**行政事業レビュー推進チームの所見**

の事業 改善 部内 改善 内容	<p>この事業は、外部有識者の指摘を踏まえ、活動指標において連続して活動実績が当初見込みを大幅に上回っているため、当初見込みの設定について見直しをすべきである。また、事業の成果を正確に把握できるような指標の設定を検討すべきである。</p>
-----------------------------	---

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

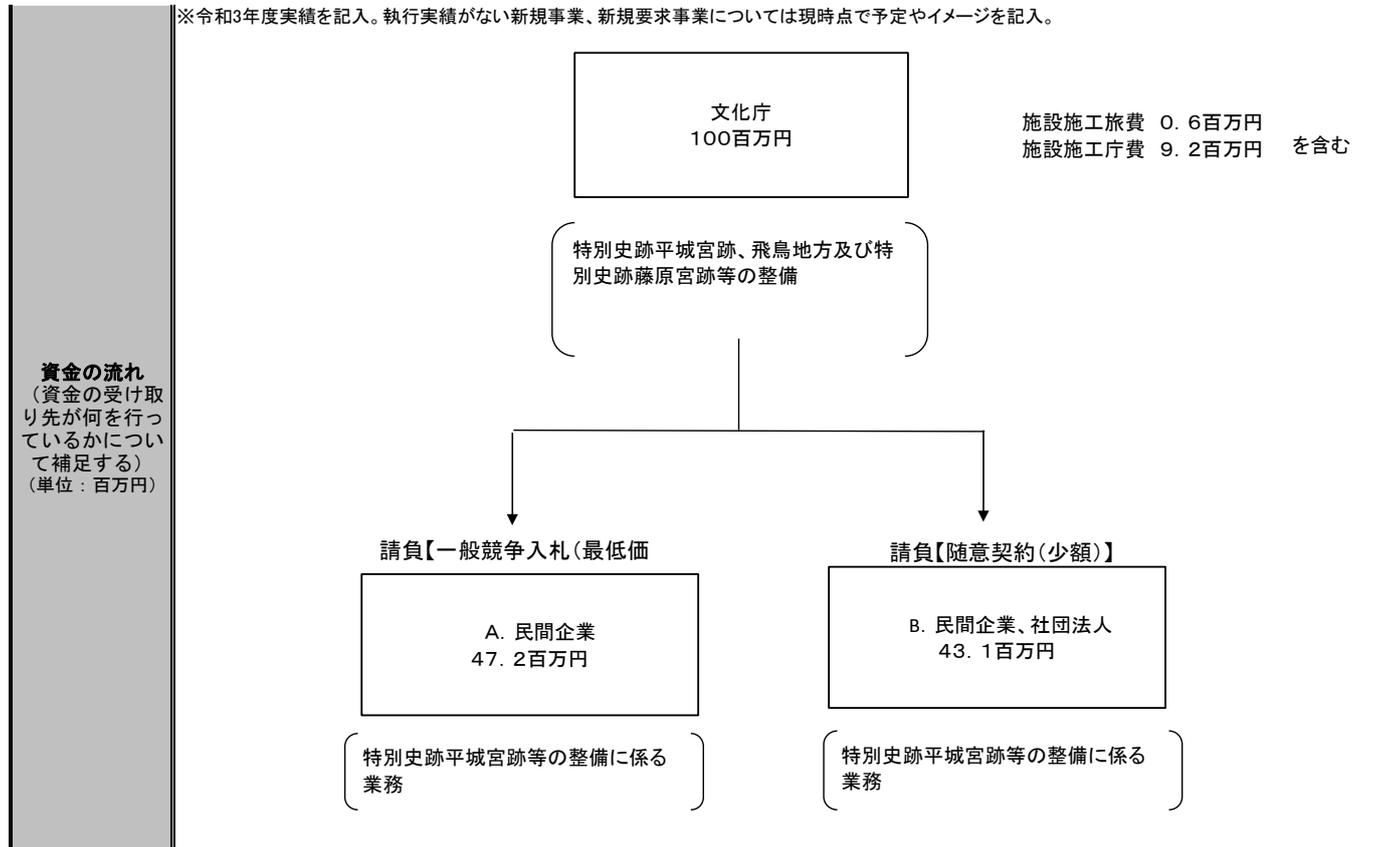
改 善 度 内 検 討	<p>従前の大規模工事案件に要した経費の状況から、1件あたり約2,000万円程度を要すると推定し、これらを予算内において執行可能な件数として5件を見込みとして提示していたところである。実際には、修繕箇所や小規模の工事案件の発生によって、実績との乖離が生じる場合があるため、指標の設定を検討する。</p>
----------------------------	---

**備考**

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成23年度	404			
平成24年度	427			
平成25年度	391			
平成26年度	386			
平成27年度	382			
平成28年度	361			
平成29年度	370			
平成30年度	383			
令和元年度	文部科学省 - 0373			
令和2年度	文部科学省 0374			
令和3年度				

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.株式会社瀧川寺社建築			B.有限会社前田造園土木		
	費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
	工事費	特別史跡平城宮跡東院庭園平橋・露台改修工事	25	工事費	特別史跡藤原宮跡醍醐池苑路沿い環境整備工事	2.5
	計		25	計		2.5

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社瀧川寺社建築	1150001009405	特別史跡平城宮跡東院庭園平橋・露台改修工事	25	一般競争契約(最低価格)	2	66.9%	-
2	内外エンジニアリング株式会社	1130001011313	特別史跡藤原宮跡現況調査業務	22	一般競争契約(最低価格)	2	84.7%	-

